

育児不安に関する臨床的研究 III

— 育児困難感のアセスメント作成の試み —

愛育相談所	川井 尚・庄司 順一
	千賀 悠子・加藤 博仁
調査研究企画部	中村 敬
嘱託研究員	恒次 欽也 (愛知教育大学)

要約：本報告ではこれまでのプロジェクト研究の知見に基づき、いわゆる育児不安の本態と考えられる育児困難感の心性の明確化と、さらにその心性を成り立たせている諸要因を明らかにし、臨床的適用にむけてのアセスメント指標作成の試みを行った。調査対象は0歳から6歳児の母親1952名、調査項目は育児に関する項目を中心に10領域88項目を選定した。得られたデータについて次のような分析を行った。まず、①年齢を0-3歳児群、3-6歳児群の2群に分け、これと各項目のクロス集計を行った。その結果、3-6歳児群にネガティブな回答傾向が一般的に認められた。つぎに、②各領域ごとに因子分析を行い、領域Iにおいて育児困難感因子がタイプI、IIに分けられ、その心性の本質が明確に示された。即ち、育児困難感タイプIの心性は子どもへのネガティブな感情を中心とする能動外罰的なものであり、育児困難感タイプIIは育児への自信のなさを中心とした受動内罰的の心性をもつものと考えられた。この2つのタイプを成り立たせる要因を特定するために③重回帰分析を行った。その結果、二つのタイプとも、年齢群に特有な要因はみられるものの、基本的なシエマ構成はほぼ同一であることが明らかになった。育児困難感タイプIは子どもへのネガティブな感情、家庭機能の問題が主に関連しており、タイプIIでは家庭機能と、母親の心の不健康感が主要関連要因と考えられた。そこで、育児困難感の低減ないし解消に向けての相談に際しては家庭機能と母親の心の健康の相互性を重視し、十分視野に入れることが重要であると指摘した。最後に、ヒストグラムから90パーセンタイルを基準にスクリーニングし保健指導または心理相談に活用しうるアセスメントの可能性が示され、今後、臨床的に有効なアセスメントへ向けて研究を行うこととした。

見出し語：育児不安、育児困難感、アセスメント

A Clinical Study on Maternal Anxiety Related to Child-Rearing ("Ikuji-Fuan")

Hisashi KAWAI, Junichi SHOJI, Yuko CHIGA,
Hirohito KATO, Takasi NAKAMURA, and Kinya TSUNETSUGU

Abstract: In this report we tried to clarify mentality of feelings of difficulty with child rearing of mothers of infants and young children, discussed factor related to this mentality, and set up a cut-off-point for assessment. Subjects were 1952 mothers of children aged from 0- to 6-years. A questionnaire, consisted of 88 items, was developed based on our previous studies. Data were analysed by 2 age groups, 0-3 years and 3-6 years. Factor-analysis was done and the results suggested two factor related to feelings of difficulty with child-rearing. Type I was active-extrapunitive mainly based on negative feeling to child, and Type II was passive-intropunitive based on lack of self-confidence for child-rearing.

Key word: Child-rearing anxiety, Ikuji-Fuan, Feelings of difficulty with child-rearing, Assessment

I 研究目的

われわれは、育児不安の本態を明らかにし、その的確な臨床的対応を見いだすべく研究を積み上げてきた。そして、育児不安の本態は子どもへのネガティブな感情、心的態度と、育児への困惑から成る心性ではないかとの知見³⁾を得た。そこで、本研究では乳幼児期を通しての、母親の育児困難感の心性をより明確にし、さらに、この心性を成り立たせている要因を見だし、その評定への試みを行うこととした。このような一連の研究があつてはじめて、いわゆる育児不安をめぐる臨床的課題に答えうるものと考え、本研究を行った。

II 研究方法

1 調査項目の作成

1994¹⁾、1995²⁾年論文において用いた調査項目とその結果を吟味検討し、さらに6-7歳未満児の母親を対象に調査可能にすべく調査項目を選定した。その領域は、1. 育児に関する13項目、2. 妊娠中出産後の精神症状に関する3項目、3. 父親に関する17項目、4. 家庭機能に関する5項目、5. 子どもの行動や母親と子どもとの関係についての19項目、6. 子どもの情緒、行動的問題に関する15項目、7. 母親の心の状態に関する22項目、8. 父親の心の状態に関する12項目、9. 妊娠、出産後の子どもの状態に関する6項目、10. 生後半年までの乳児の特徴に関する6項目の、計10領域88項目から成っている。各項目に関しては付表1年齢群別クロス集計表を参照されたい。

2 調査方法

調査地域は東京都区内、相模原市、川崎市、海老名市、豊橋市、刈谷市、蓮田市であり、調査場所は保育所56.7%、幼稚園25.6%、病院小児科乳児健診17.7%である。アンケートの回収方法は、保育所、幼稚園では、園を通して配布、回収し、病院小児科健診では、その場での記載、回収を主とし、一部郵送法によった。すべてが郵送法によっていないため正確な回収率を得られないが、各施設へのアンケート配布数と回収数の比から約80%と推測される。

3 調査対象

対象は、0歳から3歳未満の子をもつ母親987名、3歳から6歳児の母親965名、計1952名である。対象者の属性については、子どもの年齢は0歳児216名、1歳児211名、2歳児268名、3歳児292名、4歳児304名、5歳児370名、6歳児291名であり、ほぼ均質に分布している。性別は男児995名、女児960名であった。母親の年齢は0-3歳未満群平均31.4歳、中央値31.0歳、3-6歳群平均34.0歳、中央値34.0歳である。母親が就労しているものは、常勤37.8%、パートタイム16.7%、自営6.9%であり、専業主婦は32.0%であった。

4 結果の整理法

(1)年齢群別によるクロス集計

付表1に0-3歳群、3-6歳群の単純集計及び両年齢群のクロス集計(χ^2 検定)による項目を示した。

(2)因子分析

項目数の少ない領域IIを除き、各領域毎に0-3歳、3-6歳両群について因子分析を行った。因子分析はバリマックス回転によった。抽出された各因子は、それを構成する項目(原則的に負荷量0.4以上のものを選択)により、命名した。各因子毎に構成する項目の単純加算により(例:4項目で構成されれば肯定的反応1点、否定的反応2点なので、理論上は4点から8点まで分布)、因子毎の得点を求めた。なお、それぞれクロンバックの α 係数により、おおよその信頼性を確認した。

(3)重回帰分析

領域I. 育児に関する項目を構成する因子それぞれを従属変数として、領域Iの他の因子を含めて、他の領域の全ての因子を説明変数とする重回帰分析を行った。これは、目的のひとつである抽出される育児不安に関わる因子を説明する要因群を求めるためである。なお、各重回帰分析の結果、相関比(r 自乗)はあまり高いものとはいえなかったが、他の指標(分散分析)では特に問題はなく、分析可能な範囲であると考えた。

(4)ヒストグラムの算出

今後の保健指導、あるいは心理相談に適用することのできる評定尺度の作成のための基礎的検討として、領域Iにおいて抽出された因子群それぞれのヒストグラムを作成した。

Ⅲ 研究結果

1 年齢群によるクロス集計(χ^2 検定)

付表1に両年齢群の領域毎のクロス集計と年齢群間の有意差を*印により示した。主な結果をのみ述べる。

①領域Ⅰ．育児に関する項目：有意差のある項目は「子どもの発達が気になる」「子どもといつもいないと落ち着かない」を除き3-6歳群に比率が高い。

②領域Ⅱ．妊娠、出産後の精神状態に関する項目：妊娠中の不安、出産後のマタニティブルーは0-3歳群に高く、有意である。

③領域Ⅲ．父親に関する項目：「夫と気持ちが通じ合わない」「精神的に支えてくれない」等の夫婦関係、家事や育児への消極性、子どもとの関係等この領域では3-6歳群が有意に高い比率を示した。「子どもの扱いが分からない」「父親としての自覚が足りない」「子どもは父親になつていない」の3項目に有意差はなく、しかも前2項目は10数%あることに注目したい。

④領域Ⅳ．家庭機能に関する項目：ここでは年齢群間に有意差は見られない。「家族から離れて一人になりたいことがある」「家族としてのまとまりを感じない」の2項目の比率の高さ等、家族、家庭の問題への示唆に富む回答である。

⑤領域Ⅴ．子どもの状態に関する項目：ほとんどの有意項目が3-6歳群に高く、項目自体の性質から年齢による差があることが当然と考えてよい項目もある。とくに「子どもとじっくりいかなないことがある」「子どものすることが許せないことが多い」「私の顔色をうかがっていると思う」は3-6歳群に有意に多く、子どもの発達要因、及びおそらくこれまでの母子関係のありようが影響していることが考えられる。

⑥領域Ⅶ．母親の心の状態に関する項目：「眠れない」「食欲がない」の2項目を除き、有意差のある項目は3-6歳群に多くみられている。「生き生きしていない」「充実していない」「怒りっぽい」「幸せな気分で過ごしていない」等がみられている。また、「心身不調(10%強)」「気が滅入ることがよくある(20数%)」「とても心配性で気に病むことが多い(30数%)」等の比率にも注目したい。

⑦領域Ⅷ．父親の心の状態に関する項目：母親による回答なので、バイアスを考慮しなくてはならないが、有意差のある項目は3-6歳群に高い。「居場所がない(約4%)」「心身不調(約8%)」等有意差のない項

目もみたい。

⑧領域Ⅹ．乳児期の特徴に関する項目：年齢間に有意差を認めないことは妥当である。「よく泣きなだめにくかった(21%)」「とても手が掛かり、大変だった(21%)」「おとなしく手が掛からなかった(47.8%)」などの比率をみておきたい。

2 因子分析

これまでの研究では、育児に関する項目と、母親の心の状態とを含めて因子分析をしたので、因子を構成する項目に両者が混在し、育児不安の由来が不明確であった。そこで今回はこの二つの領域を分けて因子分析を行うことにした。また、各領域についても因子分析を行い、その因子と命名したものを付表2に示した。ここでは本研究のテーマである領域Ⅰ育児に関する因子分析について記述する。

(1)領域Ⅰ．育児に関する項目の因子分析(表1)

①0-3歳未満群：3つの因子が抽出され、第1因子は「子どものことが煩わしくてイライラする」「育児の負担感」「母親として不適格」「叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかなど子どもへのネガティブな感情を含んだ<育児困難感タイプⅠ>と命名した。第2因子は「育児に自信がもてない」「うまく育てていない」「育児についていろいろ心配」といった項目から成り、<育児困難感タイプⅡ>とした。なお、この因子命名は、われわれがこれまで行った育児不安研究³⁾において、育児不安の本態と考えられた育児困難感を構成する項目と一致するところからとられた。

更に第3因子として、「特に理由はないが子どものことがとても気になる」「子どもと一緒にいないと落ち着かない」といった子どもの状態を気遣う項目構成から<気遣い感>と命名した。

②3-6歳群：前群と同項目から成り、ほぼ同質の第1、第2因子が抽出され、同じく<育児困難感タイプⅠ>、<育児困難感タイプⅡ>とした。ただし、0-3歳群と異なるところは、第2因子に、「よその子と比べて、落ち込んだり、自信をなくしたりすることがある」という項目が加わったことである。

3 領域Ⅰ．育児困難感因子に関する重回帰分析

育児困難感因子を成り立たせている要因群を見いだすために、重回帰分析を行った。

(1)育児困難感因子タイプⅠ

①0-3歳群：表2に示すように、育児困難感タイプ

表1 領域Ⅰ.育児に関する項目の因子分析表

①0-3歳未満群

第1因子 育児困難感タイプⅠ (固有値3.145 寄与率26.21%)

項 目	負荷量
3.子どものことがわずらわしくてイライラする	0.638
5.子どもを育てることが負担に感じられる	0.538
6.母親として不適格と感じる	0.486
7.叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと思うことがある	0.385

第2因子 育児困難感タイプⅡ (固有値1.627 寄与率13.56%)

項 目	負荷量
1.何となく育児に自信が持てないように思う	0.664
2.育児についていろいろ心配なことがある	0.439
4.子どもをうまく育てていると思うR	0.548

第3因子 気遣い感 (固有値1.029 寄与率8.58%)

項 目	負荷量
8.特に理由はないが子どものことがとても気になる	0.596
12.子どもの発達が気にかかる	0.468
10.いつも子どもと一緒にいないと気持ちが落ち着かない	0.450
2.育児についていろいろ心配なことがある	0.410

②3-6歳群

第1因子 育児困難感タイプⅠ (固有値3.301 寄与率27.51%)

項 目	負荷量
3.子どものことがわずらわしくてイライラする	0.670
6.母親として不適格と感じる	0.604
5.子どもを育てることが負担に感じられる	0.532
7.叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと思うことがある	0.442
1.何となく育児に自信が持てないように思う	0.489

第2因子 育児困難感タイプⅡ (固有値1.523 寄与率12.69%)

項 目	負荷量
2.育児についていろいろ心配なことがある	0.586
1.何となく育児に自信が持てないように思う	0.581
9.よその子どもと比べて、落ち込んだり、自信をなくしたりすることがある	0.504
4.子どもをうまく育てていると思うR	0.447

Ⅱ因子をはじめ、各領域の各因子との関連が認められた。「家庭の中がしっくりいかない」「自分の居場所がない」など＜家庭機能の問題因子（領域Ⅳ）以下（ ）内は各領域とその因子番号を示し、付表2を参照のこと＞、「子どものしていることが許せない」「とめどなく叱ってしまう」など＜子どもへのネガティブな感情因子（Ⅴ-3）＞、「イライラ」「怒りっぽい」の＜母親の焦燥感因子（Ⅶ-4）＞、子どもへの＜気遣い因子（Ⅰ-3）＞、「母親から離れられない」「人見知り強い」「とても怖がる」など母子関係の不全が想定される＜不安、恐怖因子（Ⅴ-4）＞、＜言語の発達（Ⅵ-1）＞、最後に＜妊娠、出産後の異常因子（Ⅸ）＞から成っている。

②3-6歳群：0-3歳群と共通している因子は、＜育児困難感因子タイプⅡ＞、＜子どもへのネガティブな感情（Ⅴ-1）＞、＜家庭機能（Ⅳ）＞、の3因子である。「生き生きしていない」「幸せな気分で過ごしていない」「気持ちが充実していない」など＜母親の心の不健康感因子（Ⅶ-1）＞、乳児初期の「あまり泣かない（R：逆転項目を示す）」「おとなしくて手がからない（R）」の＜difficult type因子（Ⅹ-2）＞、そして、妊娠中の不安、出産後のマタニティブルーズ及び抑うつ状態がこの年齢群の本因子に関連している。

(2)育児困難感因子タイプⅡ

①0-3歳群：＜育児困難感タイプⅠ＞が関与し、この年齢群でタイプⅠ因子と共通するものは＜焦燥感＞、

＜気遣い感＞の2因子である。さらに、＜母親の心の不健康感因子（Ⅶ-1）＞、「父親が家事、育児に消極的」「仕事や趣味だけ」「自分や子どものためによくしてくれない」など＜父親の非家庭的因子Ⅲ-2＞、そして、＜母親の抑うつ、不安因子（Ⅶ-2）＞が本因子の成り立ちに関与している。

②3-6歳群：0-3歳群と共通する因子は、＜育児困難感タイプⅠ＞、＜母親の心の不健康感＞の2因子である。また、本年齢群で＜育児困難感因子Ⅰ＞と共通するものは、＜母親の心の不健康感＞、＜家庭機能＞、である。ここでの特徴は、子どもが「怒りっぽい」「気分が変わりやすい」「かんしゃくをよくおこす」といった＜子どもの扱いにくさ因子（Ⅴ-2）＞、＜言語の発達因子（Ⅵ-1）＞「強い人見知り」「とても怖がる」等子どもの＜不安、恐怖因子（Ⅴ-4）＞が関連をもっていることであり、さらに、「楽天的でない」「敏感に感じすぎてしまう」「心配性で気に病む」といった＜自己否定感因子Ⅶ-3＞、がこの年齢群の本因子を成立させている。

(3)気遣い感因子

本因子は0-3歳群にのみ抽出された。＜育児困難感因子Ⅰ及びⅡ＞、子どもの＜不安、恐怖感（Ⅴ-4）＞、母親の＜自己否定感（Ⅶ-3）＞、母親の＜心の不健康感（Ⅶ-1）＞、父親の＜非家庭的Ⅲ-5＞、母親の＜心身不調感（Ⅶ-6）＞因子により成り立つことが認められた。

表2 重回帰分析の結果

(1)従属変数：領域Ⅰ第1因子 育児困難感タイプⅠ

①0-3歳未満群

因子名	領域 -因子	回帰 係数	標準回 帰係数
育児困難感タイプⅡ	Ⅰ-2	0.250	0.318
家庭機能	Ⅳ全部	0.179	0.234
子どもへのネガティブな感情	Ⅴ-3	0.227	0.182
母親の焦燥感	Ⅶ-4	0.127	0.128
言語発達	Ⅵ-1	0.241	0.126
気遣い感	Ⅰ-3	-0.131	-0.134
子どもの不安・恐怖感	Ⅴ-4	0.114	0.094
妊娠・分娩・新生児期の異常	Ⅸ全部	0.008	0.079

定数=-0.470 R²=0.410

②3-6歳群

因子名	領域 -因子	回帰 係数	標準回 帰係数
育児困難感タイプⅡ	Ⅰ-2	0.409	0.432
子どもへのネガティブな感情	Ⅴ-1	0.323	0.243
母親の心の不健康感	Ⅶ-1	0.141	0.147
家庭機能	Ⅳ全部	0.173	0.125
言語発達	Ⅵ-2	-0.232	-0.065
difficult type	Ⅹ-2	-0.122	-0.071
妊娠・出産後の精神状態	Ⅱ全部	0.119	0.040

定数=0.603 R²=0.473

表2 重回帰分析の結果 つづき

(2)従属変数：領域Ⅰ第2因子 育児困難感タイプⅡ

①0-3歳未満群

因子名	領域 -因子	回帰 係数	標準回 帰係数
育児困難感タイプⅠ	I-1	0.377	0.297
母親の心の不健康感	VII-1	0.170	0.227
気遣い感	I-3	0.280	0.225
母親の焦燥感	VII-4	0.130	0.104
父親の非家庭的	III-2	-0.110	-0.117
母親の抑うつ・不安感	VII-2	0.007	0.100

定数=0.145 $R^2=0.391$

②3-6歳群

因子名	領域 -因子	回帰 係数	標準回 帰係数
育児困難感タイプⅠ	I-1	0.517	0.490
扱いにくさ	V-2	0.205	0.139
言語発達	VI-2	0.557	0.147
母親の自己否定感	VII-3	0.146	0.110
子どもの不安・恐怖感	V-4	0.160	0.086
母親の心の不健康感	VII-1	0.009	0.085
家庭機能	IV全部	-0.104	-0.071

定数=0.519 $R^2=0.428$

(3)従属変数：領域Ⅰ第3因子 気遣い感

①0-3歳未満群

因子名	領域 -因子	回帰 係数	標準回 帰係数
育児困難感タイプⅡ	I-2	0.251	0.314
子どもの不安・恐怖感	V-4	0.230	0.187
母親の自己否定感	VII-3	0.149	0.200
育児困難感タイプⅠ	I-1	-0.165	-0.162
母親の心の不健康感	VII-1	-0.106	-0.175
父親の非家庭的	III-2	0.009	0.117
妊娠・分娩・新生児期の異常	IX全部	0.153	0.101

定数=1.577 $R^2=0.188$

4 ヒストグラムによる育児困難感スクリーニングためのカットオフポイント

表3に示すようにパーセンタイル値を算出した。育児困難感タイプⅠ因子は4項目から成り、ネガティブ回答を1項目2点としたので合計ネガティブ点は8点となる。以下の因子得点も同様である。

①0-3歳群

a) 育児困難感タイプⅠ因子：本因子の90パーセンタイル値は5あるいは6点であり、その人数は5点、54人、7.9%、6点32人、4.7%を示した(表3-1)。

b) 育児困難感タイプⅡ因子：90パーセンタイル値は6点、130人19.2%である(表3-2)。

c) 気遣い感因子：90パーセンタイル値は5ないし6点である。5点129人、18.8%、6点46人6.7%であった。

d) 3因子合計点：90パーセンタイル値は15点以

上18点であり、72人10.9%である。なお、3因子合計点のヒストグラムを図1に示した。

②3-6歳群

a) 育児困難感タイプⅠ因子：90パーセンタイル値9ないし10点である。9点104人8.4%、10点50人4.1%であった。

b) 育児困難感タイプⅡ：90パーセンタイル値は9いは10点であり、9点は154人12.5%、10点は99人8.1%であった。

c) 2因子合計点の90パーセンタイル値は18から20点である。この範囲にいる人は134人11.0%であり、そのヒストグラムを図2に示した。

これまでの調査研究や臨床経験からみて、おおよそ10%内外の人が相談の対象と考えられるところから、90パーセンタイル値をカットオフポイントにスクリーニングしうと考える。

表3 パーセンタイル値(ヒストグラム)

① 0-3歳未満

第1因子

育児困難感タイプⅠ

得点	人数	有効 パーセント
3.00	472	68.9
4.00	127	18.5
5.00	54	7.9
6.00	32	4.7
合 計	685	100.0
欠損値	10	

第2因子

育児困難感タイプⅡ

得点	人数	有効 パーセント
3.00	213	31.5
4.00	206	30.4
5.00	128	18.9
6.00	130	19.2
合 計	677	100.0
欠損値	18	

第3因子

気遣い感

得点	人数	有効 パーセント
3.00	270	39.4
4.00	241	35.1
5.00	129	18.8
6.00	46	6.7
合 計	686	100.0
欠損値	9	

領域Ⅰ

因子合計点

得点	人数	有効 パーセント
9.00	105	15.9
10.00	115	17.4
11.00	121	18.3
12.00	112	16.9
13.00	75	11.3
14.00	62	9.4
15.00	36	5.4
16.00	27	4.1
17.00	8	1.2
18.00	1	0.2
合 計	662	100.0
欠損値	33	

② 3-6歳

第1因子

育児困難感タイプⅠ

得点	人数	有効 パーセント
5.00	498	40.4
6.00	270	21.9
7.00	185	15.0
8.00	127	10.3
9.00	104	8.4
10.00	50	4.1
合 計	1234	100.0
欠損値	23	

第2因子

育児困難感タイプⅡ

得点	人数	有効 パーセント
5.00	240	19.5
6.00	296	24.1
7.00	227	18.5
8.00	213	17.3
9.00	154	12.5
10.00	99	8.1
合 計	1229	100.0
欠損値	28	

領域Ⅰ

因子合計点

得点	人数	有効 パーセント
10.00	172	14.2
11.00	212	17.4
12.00	178	14.7
13.00	141	11.6
14.00	123	10.1
15.00	100	8.2
16.00	86	7.1
17.00	69	5.7
18.00	75	6.2
19.00	44	3.6
20.00	15	1.2
合 計	1215	100.0
欠損値	42	

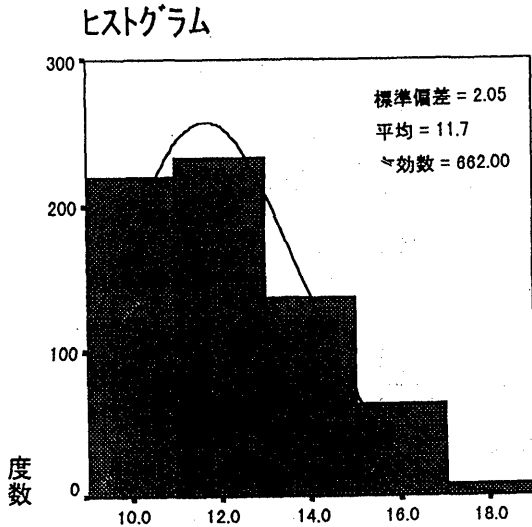


図1 0-3歳未満群
領域Ⅰ-3因子合計点のヒストグラム

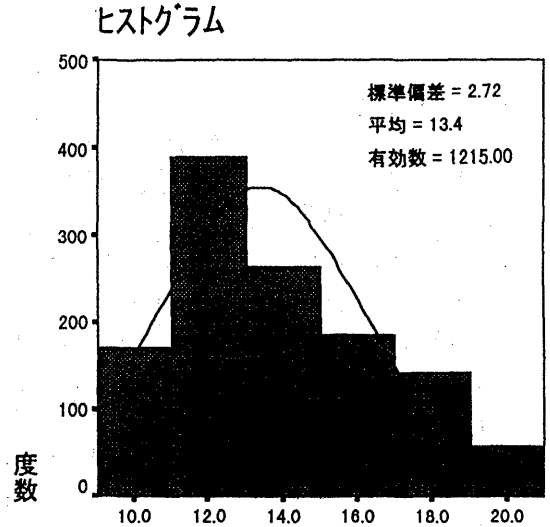


図2 3-6歳群
領域Ⅰ-2因子合計点のヒストグラム

Ⅳ 考察

研究目的に述べたところを遂行するために、最も重要な調査項目の作成についてまず考察を加えたい。これらは、本プロジェクト研究においてこれまで用いた項目を、研究結果を含め検討し、選択したもので、得られた結果からほぼ妥当と考える。ただし、乳幼児期を通しての調査を考えた結果、調査用紙を1部にしたため、記入にとまどいを与えたことは否めない。今後の確な育児不安評定を行うために、年齢区分をどこにおくか、即ち、0歳児用、1-3歳児用など、研究知見を更に検討し、工夫したい。

調査対象については、0歳から6歳まで標本のバランスはほぼとれているが、調査人数が1952名で標本数が不足していることは否めない。調査場所が保育所、幼稚園、病院小児科健診の場であることは妥当と考えるが、調査地域が限定されていること、即ち、全国調査ではないことが、本研究知見を一般化することを妨げている。以上の研究方法上の課題を念頭において、得られた結果について考察し、主たる研究知見、及び今後の課題について検討を加えたい。

1 年齢群によるクロス集計について

全体的な傾向をみると、各領域にわたり有意差のある項目の多くは、3-6歳群に比率が高いことが指摘される。即ち、子どもの年齢が高くなると、母親のネガティブ回答の比率は高くなる傾向にあるといえよう。たとえば、領域Ⅰ 育児に関する項目の多くが3-6歳児群に有意であり、0-3歳の時期に比べて養育に困難を感じている度合いが大きくなることが示されている。これと合わせて、領域Ⅴの子どもの状態「子どもとしっくりいかない」「子どものすることが許せない」「とめどなく叱ることが多い」はその比率の高さをみても見逃せない。子どもの自我の発達との関連も考えられ、母親のとまどいや対応の不適切さなどが現れやすい時期であることを示したといえよう。領域Ⅲ「夫と気持ちが通じ合わない」等の夫婦関係の問題、父親の家事、育児への消極性、父子関係の問題も子どもの年齢が上がると共に、父親がその役割を果たし得ない傾向にあることに注目したい。領域Ⅶ母親の心の状態や領域Ⅷ父親の心の状態も多くは3-6歳児群に高率であり、領域ⅠやⅤとの関連が示唆される。特に、母親の心の状態は次に考察するように育児困難感との関

連が深く、その項目内容と比率の示すところをよく見ておきたい。

0-3歳未満群の方が比率の高い、「子どもといつもいないと落ち着かない」は、この時期の母子関係を反映しているよう。

有意差はないが全体的に意味深いものとしては領域Ⅳの家庭機能に関するもので、これらの項目とその比率をみることにより、母親が家庭、家族をどのように感じ、体験しているのかがうかがえる。「家族から離れて一人になりたい」と思うこともあるが、「何となくしっくりいかない」「家族としてのまとまりを感じない」等家庭機能の問題は育児に、そして育児困難感の形成にも影響がある。

2 育児困難感因子について

領域Ⅰ育児に関する項目の因子分析の結果、抽出された育児困難感タイプⅠおよびⅡの両因子は両年齢群にほぼ共通した項目群から構成されている。従って、育児困難感は乳幼児期を通してその本質は同一のものと考えられる。そして、われわれの従来の研究から育児不安の中核は育児困難感であるという知見を得ており、本研究において、育児困難感がさらにタイプⅠとⅡに分かれ抽出されたことは、よりその本質が明確になったと考える。

0-3歳群のみ第3因子に「気遣い感」因子が抽出されたが、その構成する項目群から、このことはこの時期の年齢の母子関係自体の特性と母親の気遣い過剰な心性を示したものと考えられる。また、この年齢群には第1子が多いことが予想され、初めて子どもを育てる過程で経験不足からの気遣いが発生したとも考えられる。

育児困難感タイプⅠの心性は子どもへのネガティブな感情、心的態度からなるものと考えられ、ここから、母親としての不適格感がもたらされると考えられる。

また、構成項目を別の角度から吟味すると、自らの問題として捉えるのではなく、子どもへのネガティブな感情、態度をもつところから、能動外罰的な心性がこのタイプを構成しているとも考えられる。なお、能動的とはタイプⅡに比較してのことである。

育児困難感タイプⅡの心性はその構成項目から考えると、いわば、育児への自信のなさを中核としたものであり、うまく育てていない、あるいは育児への様々な心配と、受け身かつ自らの問題と捉える受動内罰的な心性をもつものと考えられる。

この二つのタイプを成り立たせる諸要因については

次に考察したい。

3 育児困難感に影響を与える諸要因について

図3、4に重回帰分析による育児困難感タイプⅠ、及び、Ⅱそれぞれに影響を与える諸要因の関係を考察し、仮説構成シエマとして示した。

育児困難感タイプⅠは両年齢群の基本的なシエマ構成は同じであると考えられる。差違として0-3歳群では子どもの不安・恐怖、言語の発達、母親の焦燥感、妊娠・分娩・新生児期の異常が構成要因に加わり、3-6歳群では妊娠・出産後の母親の精神症状、母親の心の不健康感が要因となっている。0-3歳群の不安・恐怖は母子関係の安全性の機能が不十分であること、母子関係が不安定であることからもたらされたものであろう。母親の焦燥感もこれと無関係ではない。

3-6歳群では母親の心の不健康感が関与していることに注目される。妊娠出産後の不安、抑うつ感がこの時期になっても関与しており、いわば母親の心の状態がこの時期の育児困難感に大きな影響を与えているものとする。

そして、重要な知見として育児困難感タイプⅠは、基本的に乳幼児期を通して、「子どもとしっくりいかない」、「子どもを許せないことが多い」「とめどなく叱ってしまうことが多い」にみる子どもへの補助的な感情、「家族から離れて一人になりたい」「家庭の中が何となくしっくりいかない」「家庭の中にもめ事が起こる」、「家庭に自分の居場所がない」「家族としてのまとまりを感じない」といった家庭機能の問題が大きく関与していると考えられる。

育児困難感タイプⅡも基本的なシエマ構成は類似している。ただし、両年齢群を分けているものの第1は、子どもの問題との関連にある。即ち、3-6歳群にみられる、子どもの扱いにくさ、子どもの不安・恐怖、言語の発達等であり、この時期になると、育児困難感タイプⅡに子どもの問題がより登場するといえよう。0-3歳群には子どもへの気遣い感、母親の抑うつ、不安、焦燥感が、3-6歳群には母親の自己否定感が関与しており、因子分析の結果の考察に述べたが、これらの精神状態が育児困難感タイプⅡの自信のなさ、受動内罰的な心性の形成に関与しているものとする。

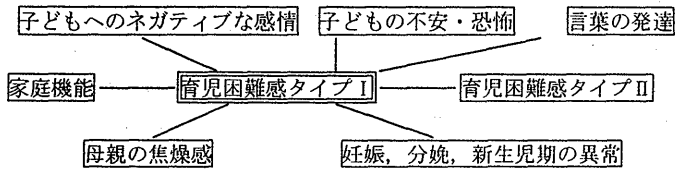
ところで、子ども自身の問題が育児困難感と関係を持つのは3-6歳群のタイプⅡに顕著に見られることに注目される。全体的にみるとこのことは、子ども自身とは関わりなく育児困難感をもつことの可能性が大きいことを示していると考えられよう。そこで、子ど

もの現実の問題と関係が薄いとすれば、母親の子ども認知の問題を考えなくてはならない。いわば子ども認知の歪みが育児困難感を生み出す可能性が考えられる。

主要な知見として育児困難感の両タイプに共通するもっとも重要で基本的な要因は家庭機能と、母親の心の不健康感であることを指摘したい。そして、家庭機能と母親の心の健康は相互関係にあるものと考えられ、ここに育児困難感の振り出しがあることが十分考えられ、従って、相談、援助もここに重点を置くことになる。

ところで、シエマにみられるように育児困難感タイプⅠとⅡはそれぞれ相互に要因の一つとして構成因に含まれている。このことは二つの心性にはつながりがあるものと考えてよい。すなわち、育児困難感をもつ母親の心性にはこの二つのタイプは基本的に存在していて、どちらがより優位にあらわれるかは、以上述べた要因相互の関係のあり方によるのではないかと考えられる。無論、母親の生活史やパーソナリティも考慮に入れる必要はあるだろう。

① 0-3歳未満群



② 3-6歳群

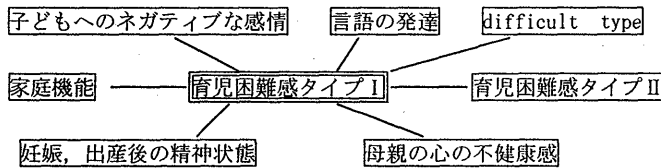
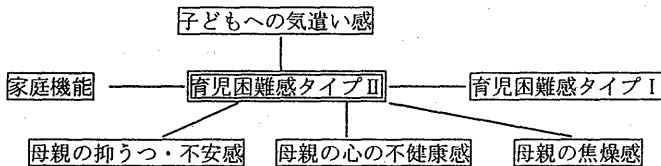


図3 重回帰分析による育児困難感タイプⅠの要因シエマ

① 0-3歳未満群



② 3-6歳群

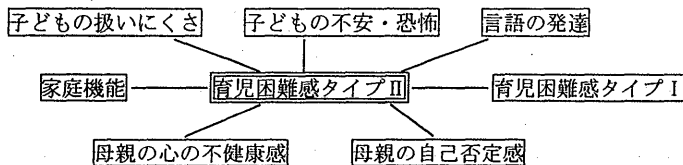


図4 重回帰分析による育児困難感タイプⅡの要因シエマ

4 育児困難感のアセスメントに向けて

ヒストグラムの結果から、おおよそ、育児困難感タイプⅠまたはタイプⅡで90パーセンタイル以上のスコアを得た母親が当面の保健指導ないし心理相談の対象となるものと推測できる。さらに、両タイプともに90パーセンタイルを超える場合にはより専門性の高い心理相談の対象としてあげられよう。その場合の保健指導ないし、心理相談を行うにあたっては、上に述べたような育児困難感に影響を与えている諸要因を十分に考慮に入れる必要がある。そのために、他の領域のスコアも参照しながら、相談を進めていくことが重要であろうし、とりわけ、家庭機能と母親の心の健康の相互性を視野に入れた相談が育児困難感の低減ないし解消に有用であろう。

最後に、育児困難感の最終的なアセスメントとして活用するためには下記の諸点をクリアーする必要がある。

すなわち、1. 考察のはじめに述べたような、標本や調査地域、項目の年齢別構成などの検討、2. スケール

の妥当性と信頼性の評価、とくに臨床的に有効であること、3. 評定尺度として、各領域の標準得点化によるプロフィール分析を可能にすること、等である。

本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた各施設の先生方、お母さんたちに深く謝意を表したい。

引用文献

- 1) 川井 尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・中野恵美子・恒次欽也：育児不安に関する基礎的研究。日本総合愛育研究所紀要，30集，27-39，1994。
- 2) 川井 尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・中野恵美子・恒次欽也：育児不安に関する臨床的研究Ⅰ—幼児の母親を対象に—。日本総合愛育研究所紀要，31集，27-42，1995。
- 3) 川井 尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・中野恵美子・恒次欽也：育児不安に関する臨床的研究Ⅱ—育児不安の本態としての育児困難感について—。日本総合愛育研究所紀要，32集，29-47，1996。

付表1 年齢群別クロス集計表

		児の年齢(高低2群)				合計			
		3歳未満		3から6歳		度数	列 %		
		度数	列 %	度数	列 %				
領域 Ⅰ	育児に自信ない	いいえ	497	71.6%	829	66.3%	1326	68.2%	*
		はい	197	28.4%	422	33.7%	619	31.8%	
	育児に心配ある	いいえ	343	49.4%	632	50.4%	975	50.0%	
		はい	351	50.6%	623	49.6%	974	50.0%	
	子ども煩わしくいら いらする	いいえ	592	85.5%	946	75.6%	1538	79.1%	*
		はい	100	14.5%	306	24.4%	406	20.9%	
	子どもうまく育てている	はい	365	53.8%	518	41.7%	883	45.9%	*
		いいえ	314	46.2%	725	58.3%	1039	54.1%	
	子育て負担に感じる	いいえ	616	88.6%	1108	88.4%	1724	88.5%	
		はい	79	11.4%	146	11.6%	225	11.5%	
	母親として不適格と 感じる	いいえ	533	77.6%	867	69.6%	1400	72.5%	*
		はい	154	22.4%	378	30.4%	532	27.5%	
	叱りすぎるなど虐待 しているのでは	いいえ	545	78.5%	794	63.4%	1339	68.8%	*
		はい	149	21.5%	458	36.6%	607	31.2%	
	理由なく子どもが 気になる	いいえ	499	72.3%	934	74.8%	1433	73.9%	
		はい	191	27.7%	314	25.2%	505	26.1%	
	他児と比べ落ち込 んだり自信なくす	いいえ	596	85.9%	988	78.8%	1584	81.3%	*
		はい	98	14.1%	266	21.2%	364	18.7%	
	いつも子どもとい ないと落ち着かない	いいえ	589	85.0%	1158	92.4%	1747	89.8%	*
		はい	104	15.0%	95	7.6%	199	10.2%	
	子どもと離れ一人 になりたいことある	いいえ	229	33.1%	410	32.8%	639	32.9%	
		はい	462	66.9%	840	67.2%	1302	67.1%	
	子どもの発達が気 にかか	いいえ	346	50.0%	748	59.8%	1094	56.3%	*
		はい	346	50.0%	503	40.2%	849	43.7%	
	本児以外に気にか かるきょうだいいる	いいえ	596	85.9%	1006	80.2%	1602	82.2%	*
		はい	98	14.1%	249	19.8%	347	17.8%	

			児の年齢(高低2群)				合計		
			3歳未満		3から6歳		度数	列%	
			度数	列%	度数	列%			
領域Ⅱ	妊娠中、動悸、落ち着かず、不安あり	いいえ	535	77.3%	1062	84.8%	1597	82.2%	*
		はい	157	22.7%	190	15.2%	347	17.8%	
	産後、一時的に涙もろく、淋しく	いいえ	375	54.1%	748	59.7%	1123	57.7%	*
		はい	318	45.9%	504	40.3%	822	42.3%	
	産後、気が沈みおっくうになった時期	いいえ	596	86.0%	1104	88.2%	1700	87.4%	
領域Ⅲ		はい	97	14.0%	147	11.8%	244	12.6%	
	夫と話す時間がとても少ない	いいえ	453	67.1%	738	61.8%	1191	63.7%	*
		はい	222	32.9%	457	38.2%	679	36.3%	
	夫と気持ちが通じ合わないことある	いいえ	479	71.0%	724	60.8%	1203	64.5%	*
		はい	196	29.0%	467	39.2%	663	35.5%	
	夫の帰宅がいつも遅い	いいえ	369	54.7%	695	58.3%	1064	57.0%	*
		はい	306	45.3%	498	41.7%	804	43.0%	
	夫は精神的に私を支えてくれる	はい	567	84.2%	896	75.4%	1463	78.6%	*
		いいえ	106	15.8%	292	24.6%	398	21.4%	
	夫は家事や育児に消極的である	いいえ	530	78.5%	856	71.8%	1386	74.2%	*
		はい	145	21.5%	336	28.2%	481	25.8%	
	夫は子どもの一日の様子を聞いてくれる	はい	527	77.7%	779	65.4%	1306	69.8%	*
		いいえ	151	22.3%	413	34.6%	564	30.2%	
	育児のことで相談にのってくれる	はい	514	76.1%	816	68.5%	1330	71.3%	*
		いいえ	161	23.9%	375	31.5%	536	28.7%	
	夫は一方的にいろいろ決めてしまう	いいえ	602	89.2%	1025	85.8%	1627	87.1%	*
		はい	73	10.8%	169	14.2%	242	12.9%	
	夫は私や子どもによくしてくれる	はい	567	84.0%	937	79.1%	1504	80.9%	*
		いいえ	108	16.0%	248	20.9%	356	19.1%	
	夫は仕事や趣味だけに打ち込んでいる	いいえ	591	87.4%	994	83.4%	1585	84.9%	*
		はい	85	12.6%	198	16.6%	283	15.1%	
	この人と結婚したことを幸せに思う	はい	585	88.4%	964	82.6%	1549	84.7%	*
		いいえ	77	11.6%	203	17.4%	280	15.3%	
	夫は子どもにあまり関心がない	いいえ	644	95.3%	1094	91.8%	1738	93.0%	*
		はい	32	4.7%	98	8.2%	130	7.0%	
	夫は子どもとよく遊び面倒見がよい	はい	542	80.7%	861	72.4%	1403	75.3%	*
		いいえ	130	19.3%	329	27.6%	459	24.7%	
	夫は子どもの扱いがわからない	いいえ	572	84.7%	1011	85.0%	1583	84.9%	*
		はい	103	15.3%	179	15.0%	282	15.1%	
	父親としての自覚が足りない	いいえ	563	83.4%	989	83.0%	1552	83.1%	*
		はい	112	16.6%	203	17.0%	315	16.9%	
	子どもは父親になつてない	いいえ	638	94.8%	1136	95.4%	1774	95.2%	*
		はい	35	5.2%	55	4.6%	90	4.8%	
	夫は父より母親役割を果たしている	いいえ	596	88.6%	1101	92.8%	1697	91.3%	*
		はい	77	11.4%	85	7.2%	162	8.7%	
領域Ⅳ	家族から離れ一人になりたいと思うことある	いいえ	529	76.8%	910	73.2%	1439	74.4%	
		はい	160	23.2%	334	26.8%	494	25.6%	
	家庭内が何となくしっくりいかない	いいえ	628	91.4%	1125	90.5%	1753	90.8%	
		はい	59	8.6%	118	9.5%	177	9.2%	
	何かと家庭内にもめ事が起こる	いいえ	621	90.4%	1106	89.0%	1727	89.5%	
		はい	66	9.6%	136	11.0%	202	10.5%	
	家庭に自分の居場所がない	いいえ	665	97.2%	1201	96.9%	1866	97.0%	
		はい	19	2.8%	39	3.1%	58	3.0%	
		家族としてまとまりを感じる	はい	565	83.5%	998	80.7%	1563	81.7%
	いいえ	112	16.5%	239	19.3%	351	18.3%		

			児の年齢(高低2群)				合計		
			3歳未満		3から6歳		度数	列%	
			度数	列%	度数	列%			
領域 V	いつも元気で明るい	はい	661	97.2%	1193	95.0%	1854	95.8%	*
		いいえ	19	2.8%	63	5.0%	82	4.2%	
	心配な行動や癖を持つ	いいえ	558	82.2%	883	70.5%	1441	74.6%	*
		はい	121	17.8%	370	29.5%	491	25.4%	
	とても子どもが気になる	いいえ	451	66.4%	891	71.2%	1342	69.5%	*
		はい	228	33.6%	361	28.8%	589	30.5%	
	子どもとじっくりい	いいえ	613	90.1%	1050	83.8%	1663	86.0%	*
	かないことある	はい	67	9.9%	203	16.2%	270	14.0%	
	子どものすること	いいえ	640	94.0%	1089	87.0%	1729	89.4%	*
	許せないこと多い	はい	41	6.0%	163	13.0%	204	10.6%	
	とめどなく叱ること	いいえ	585	86.0%	874	69.7%	1459	75.4%	*
	が多い	はい	95	14.0%	380	30.3%	475	24.6%	
	おおよそ子どもを	はい	539	79.6%	1038	82.9%	1577	81.8%	
	理解している	いいえ	138	20.4%	214	17.1%	352	18.2%	
	私の顔をうかが	いいえ	544	80.2%	815	65.0%	1359	70.3%	*
	っていると思う	はい	134	19.8%	439	35.0%	573	29.7%	
	私に気を使ってい	いいえ	581	85.8%	898	71.7%	1479	76.6%	*
	ると思う	はい	96	14.2%	355	28.3%	451	23.4%	
	活発である	はい	635	93.8%	1122	89.5%	1757	91.0%	*
		いいえ	42	6.2%	132	10.5%	174	9.0%	
	生き生きしている	はい	663	97.9%	1201	95.8%	1864	96.6%	*
		いいえ	14	2.1%	52	4.2%	66	3.4%	
	怒りっぽい	いいえ	461	68.1%	811	64.9%	1272	66.0%	
		はい	216	31.9%	439	35.1%	655	34.0%	
	気分が変わりやすい	いいえ	460	68.5%	827	65.9%	1287	66.8%	
		はい	212	31.5%	427	34.1%	639	33.2%	
	いうことをきかない	いいえ	422	63.5%	769	61.7%	1191	62.3%	
		はい	243	36.5%	478	38.3%	721	37.7%	
友達の中に入れない	いいえ	618	94.2%	1149	91.6%	1767	92.5%	*	
	はい	38	5.8%	105	8.4%	143	7.5%		
母親から離れられ	いいえ	562	84.5%	1130	90.3%	1692	88.3%	*	
ない	はい	103	15.5%	122	9.7%	225	11.7%		
人見知りが強い	いいえ	566	84.6%	1080	86.1%	1646	85.6%		
	はい	103	15.4%	175	13.9%	278	14.4%		
とても怖がる	いいえ	577	86.0%	1027	82.0%	1604	83.4%	*	
	はい	94	14.0%	225	18.0%	319	16.6%		
かんしゃくをよく起こす	いいえ	499	74.4%	990	79.1%	1489	77.5%	*	
	はい	172	25.6%	261	20.9%	433	22.5%		

		児の年齢(高低2群)				合計	
		3歳未満		3から6歳		度数	列%
		度数	列%	度数	列%		
領域 VI	指しゃぶり・爪かみ	いいえ					
		はい					
	偏食・小食	いいえ					
		はい					
	おねしょ	いいえ					
		はい					
	夜泣き	いいえ					
		はい					
	乱暴	いいえ					
		はい					
	おしっこ・うんちの 始末ができない	いいえ					
		はい					
	おびえる	いいえ					
		はい					
	ひどく落ち着きがない	いいえ					
		はい					
	ことばの発達が遅れている	いいえ					
		はい					
	発音がはっきりしない	いいえ					
		はい					
	登園をいやがる	いいえ					
		はい					
	外では話をしない	いいえ					
		はい					
	慢性的な病気がある	いいえ					
		はい					
	心身の障害がある	いいえ					
		はい					
	発達の全般的な遅れがある	いいえ					
		はい					

			児の年齢(高低2群)				合計		
			3歳未満		3から6歳		度数	列 %	
			度数	列 %	度数	列 %			
領域 VII	眠れない	いいえ	625	90.4%	1166	93.2%	1791	92.2%	*
		はい	66	9.6%	85	6.8%	151	7.8%	
	自分の母親に何でも話せる	はい	501	73.1%	847	68.3%	1348	70.0%	*
		いいえ	184	26.9%	393	31.7%	577	30.0%	
	生き生きしている	はい	520	75.9%	857	69.0%	1377	71.5%	*
		いいえ	165	24.1%	385	31.0%	550	28.5%	
	毎日が充実している	はい	528	76.9%	863	69.4%	1391	72.0%	*
		いいえ	159	23.1%	381	30.6%	540	28.0%	
	食欲がない	いいえ	659	95.2%	1226	98.0%	1885	97.0%	*
		はい	33	4.8%	25	2.0%	58	3.0%	
	淋しい	いいえ	645	93.2%	1157	92.5%	1802	92.7%	*
		はい	47	6.8%	94	7.5%	141	7.3%	
	沈みがち	いいえ	637	91.9%	1133	90.6%	1770	91.1%	*
		はい	56	8.1%	117	9.4%	173	8.9%	
	いらいらすることが多い	いいえ	423	61.1%	651	52.0%	1074	55.3%	*
		はい	269	38.9%	600	48.0%	869	44.7%	
	悲観的になりやすい	いいえ	560	81.2%	1000	79.9%	1560	80.4%	*
		はい	130	18.8%	251	20.1%	381	19.6%	
	気持ちが充実している	はい	464	67.7%	705	56.8%	1169	60.7%	*
		いいえ	221	32.3%	536	43.2%	757	39.3%	
	心身共に不調	いいえ	616	89.4%	1103	88.3%	1719	88.7%	*
		はい	73	10.6%	146	11.7%	219	11.3%	
	おこりっぽい	いいえ	403	58.2%	580	46.5%	983	50.7%	*
		はい	289	41.8%	667	53.5%	956	49.3%	
	とても幸せな気分でも過ごしている	はい	464	67.6%	677	54.6%	1141	59.2%	*
		いいえ	222	32.4%	563	45.4%	785	40.8%	
	淋しい気持ちにおそわれることがある	いいえ	590	85.3%	1044	83.6%	1634	84.2%	*
		はい	102	14.7%	205	16.4%	307	15.8%	
気が滅入ることがよくある	いいえ	519	75.5%	902	72.4%	1421	73.5%	*	
	はい	168	24.5%	344	27.6%	512	26.5%		
楽天的でよくよく考えない方である	はい	406	59.0%	702	56.1%	1108	57.1%	*	
	いいえ	282	41.0%	549	43.9%	831	42.9%		
何事にも敏感に感じすぎる	いいえ	448	64.9%	785	63.0%	1233	63.7%	*	
	はい	242	35.1%	461	37.0%	703	36.3%		
とても心配性で気に病むことが多い	いいえ	474	68.8%	830	66.6%	1304	67.4%	*	
	はい	215	31.2%	416	33.4%	631	32.6%		
一人で何かしている方が好き	いいえ	457	66.5%	795	63.7%	1252	64.7%	*	
	はい	230	33.5%	454	36.3%	684	35.3%		
人付き合いが好きな方である	はい	416	61.0%	701	56.4%	1117	58.0%	*	
	いいえ	266	39.0%	543	43.6%	809	42.0%		
不安や恐怖感に襲われることがよくある	いいえ	610	88.8%	1133	91.0%	1743	90.2%	*	
	はい	77	11.2%	112	9.0%	189	9.8%		
落ち着かないことがよくある	いいえ	620	94.8%	1146	94.9%	1766	94.9%	*	
	はい	34	5.2%	61	5.1%	95	5.1%		

			児の年齢(高低2群)				合計	
			3歳未満		3から6歳		度数	列%
			度数	列%	度数	列%		
領域 VIII	眠れない	いいえ	625	94.7%	1110	93.4%	1735	93.8%
		はい	35	5.3%	79	6.6%	114	6.2%
	居場所がない	いいえ	631	95.9%	1140	96.1%	1771	96.0%
		はい	27	4.1%	46	3.9%	73	4.0%
	生き生きしている	はい	512	78.2%	867	73.5%	1379	75.1%
		いいえ	143	21.8%	313	26.5%	456	24.9%
	毎日が充実している	はい	530	80.8%	905	76.8%	1435	78.2%
		いいえ	126	19.2%	274	23.2%	400	21.8%
	食欲がない	いいえ	624	94.8%	1138	96.0%	1762	95.6%
		はい	34	5.2%	48	4.0%	82	4.4%
	淋しい	いいえ	626	95.1%	1140	96.2%	1766	95.8%
		はい	32	4.9%	45	3.8%	77	4.2%
	沈みがち	いいえ	632	96.0%	1126	95.1%	1758	95.4%
		はい	26	4.0%	58	4.9%	84	4.6%
	いらいらしがち	いいえ	528	80.2%	898	75.8%	1426	77.4%
		はい	130	19.8%	287	24.2%	417	22.6%
	悲観的になりやすい	いいえ	616	93.8%	1086	92.0%	1702	92.7%
		はい	41	6.2%	94	8.0%	135	7.3%
	気持ちが充実している	はい	471	72.7%	790	67.5%	1261	69.3%
		いいえ	177	27.3%	381	32.5%	558	30.7%
領域 IX	心身共に不調	いいえ	604	91.9%	1080	91.4%	1684	91.6%
		はい	53	8.1%	102	8.6%	155	8.4%
	怒りっぽい	いいえ	514	78.1%	851	71.8%	1365	74.1%
		はい	144	21.9%	334	28.2%	478	25.9%
	妊娠中の異常	なし	547	79.4%	1060	85.2%	1607	83.1%
		あり	142	20.6%	184	14.8%	326	16.9%
	分娩中の異常	なし	596	88.2%	1082	89.1%	1678	88.7%
		あり	80	11.8%	133	10.9%	213	11.3%
	新生児期の異常	なし	604	88.4%	1163	94.1%	1767	92.1%
		あり	79	11.6%	73	5.9%	152	7.9%
	生後1ヶ月以降の異常	なし	640	96.4%	1184	96.7%	1824	96.6%
		あり	24	3.6%	41	3.3%	65	3.4%
領域 X	乳児期:あまり眠らない方だった	いいえ	514	76.4%	973	77.8%	1487	77.3%
		はい	159	23.6%	277	22.2%	436	22.7%
	あまり泣かなかった	はい	242	36.0%	416	33.3%	658	34.3%
		いいえ	430	64.0%	833	66.7%	1263	65.7%
	よく泣きなだめにくかった	いいえ	530	78.9%	982	78.7%	1512	78.8%
		はい	142	21.1%	265	21.3%	407	21.2%
	母乳・ミルクの飲みが悪かった	いいえ	587	87.2%	1090	87.1%	1677	87.2%
		はい	86	12.8%	161	12.9%	247	12.8%
	とても手がかり大変だった	いいえ	531	79.0%	969	77.6%	1500	78.1%
		はい	141	21.0%	280	22.4%	421	21.9%
	大人しく手がかりなかった	はい	357	53.5%	641	51.5%	998	52.2%
		いいえ	310	46.5%	604	48.5%	914	47.8%

付表2 各領域についての因子分析表(Rは逆転項目)

領域Ⅲ.父親に関する項目

①0-3歳未満群

第1因子 ネガティブな夫婦関係(固有値5.478 寄与率32.23%)

項 目	負荷量
11. この人と結婚したことを幸せに思う R	0.644
4. 夫は精神的に私を支えてくれていると思う R	0.588
9. 夫は私や子どものためにとてもよくしてくれる R	0.580
2. 夫と気持ちが通じ合っていないと思うことがある R	0.564
7. 育児のことでよく相談にのってくれる R	0.509
15. 父親としての自覚が足りないと思う	0.457
6. 夫は子どもの一日のようすをよく聞いてくれる R	0.412

第2因子 非家庭的(固有値1.386 寄与率8.16%)

項 目	負荷量
13. 夫は子どもとよく遊び、面倒見がよい R	0.622
5. 夫は家事や育児に消極的である	0.533
9. 夫は私や子どものためにとてもよくしてくれる	0.471
10. 夫は仕事や趣味だけに打ち込んでいると思う	0.465

第3因子 ネガティブな父子関係(固有値1.208 寄与率7.11%)

項 目	負荷量
14. 夫は子どもをどのように扱ったら良いかわからない	0.679
16. 子どもは父親になつていない	0.529
12. 夫は子どもにあまり関心がない	0.427
15. 父親としての自覚が足りないと思う	0.408

②3-6歳群

第1因子 ネガティブな夫婦関係(固有値5.666 寄与率33.33%)

項 目	負荷量
11. この人と結婚したことを幸せに思う R	0.748
4. 夫は精神的に私を支えてくれていると思う R	0.702
9. 夫は私や子どものためにとてもよくしてくれる R	0.620
7. 育児のことでよく相談にのってくれる R	0.561
2. 夫と気持ちが通じ合っていないと思うことがある	0.478
6. 夫は子どもの一日のようすをよく聞いてくれる R	0.433
15. 父親としての自覚が足りないと思う	0.406

第2因子 ネガティブな父子関係(固有値1.333 寄与率7.84%)

項 目	負荷量
12. 夫は子どもにあまり関心がない	0.701
14. 夫は子どもをどのように扱ったら良いかわからない	0.572
15. 父親としての自覚が足りないと思う	0.542
13. 夫は子どもとよく遊び、面倒見がよい R	0.439
10. 夫は仕事や趣味だけに打ち込んでいると思う	0.420
16. 子どもは父親になつていない	0.414

領域Ⅳ.家族に関する項目

① 0-3歳未満群

第1因子 ネガティブな家族機能 (固有値2.483 寄与率49.64%)

項 目	負荷量
2.家庭の中が何となくしっくりいかない	0.825
3.何かと、家庭内にもめごとが起きる	0.657
5.家族としてのまとまりを感じるR	0.638
4.家庭に自分の居場所がないと思う	0.485
1.家族から離れて一人になりたいと思うことよくがある	0.421

② 3-6歳群

第1因子 ネガティブな家族機能 (固有値2.382 寄与率47.64%)

項 目	負荷量
2.家庭の中が何となくしっくりいかない	0.821
5.家族としてのまとまりを感じるR	0.678
3.何かと、家庭内にもめごとが起きる	0.622
4.家庭に自分の居場所がないと思う	0.426
1.家族から離れて一人になりたいと思うことよくがある	0.363

領域Ⅴ.子どもの状態に関する項目

① 0-3歳未満群

第1因子 扱いにくさ (固有値3.180 寄与率16.74%)

項 目	負荷量
12.怒りっぽい	0.770
19.かんしゃくをよく起こす	0.626
13.気分が変わりやすい	0.500
14.いうことをきかない	0.406

第2因子 不活発 (固有値1.907 寄与率10.04%)

項 目	負荷量
11.生き生きしているR	0.793
10.活発であるR	0.615
1.いつも元気で明るいR	0.552

第3因子 子どもへのネガティブな感情 (固有値1.549 寄与率8.15%)

項 目	負荷量
5.子どものしていることを許せないことが多い	0.605
6.とめどなく叱ってしまうことが多い	0.544
4.子どもとしっくりいかないことがある	0.428

第4因子 子どもの不安・恐怖 (固有値1.453 寄与率7.65%)

項 目	負荷量
17.人見知りが強い	0.616
18.とても怖がる	0.437
16.母親から離れられない	0.370

② 3-6歳未満群

第1因子 子どもへのネガティブな感情（固有値3.380 寄与率17.79%）

項 目	負荷量
5. 子どものしていることを許せないことが多い	0.669
6. とめどなく叱ってしまうことが多い	0.568
14. いうことをきかない	0.388
4. 子どもとじっくりいかないことがある	0.366

第2因子 扱いにくさ（固有値2.019 寄与率10.63%）

項 目	負荷量
12. 怒りっぽい	0.666
19. かんしゃくをよく起こす	0.608
13. 気分が変わりやすい	0.505

第3因子 不活発（固有値1.519 寄与率7.99%）

項 目	負荷量
10. 活発であるR	0.736
11. 生き生きしているR	0.602
1. いつも元気で明るいR	0.521

第4因子 子どもの不安・恐怖（固有値1.339 寄与率7.15%）

項 目	負荷量
17. 人見知りが強い	0.516
18. とても怖がる	0.437
15. 友達の中に入れない	0.432
16. 母親から離れられない	0.375

領域Ⅵ.子どもの行動、発達に関する項目

① 0-3歳未満群

第1因子 言語発達（固有値2.344 寄与率15.63%）

項 目	負荷量
9. ことばの発達が遅れている	0.782
10. 発音がはっきりしない	0.533

② 3-6歳群

第1因子 発達の問題（固有値2.790 寄与率18.60%）

項 目	負荷量
15. 発達の全般的な遅れがある	0.813
14. 心身の障害がある	0.679
9. ことばの発達が遅れている	0.463

第2因子 言語発達（固有値1.449 寄与率9.66%）

項 目	負荷量
10. 発音がはっきりしない	0.717
9. ことばの発達が遅れている	0.566

領域Ⅶ.母親の心の状態に関する項目

① 0-3歳未満群

第1因子 母親の心の不健康感 (固有値6.555 寄与率29.80%)

項 目	負荷量
10. 気持ちが充実している R	0.752
4. 毎日が充実している R	0.746
3. 生き生きしている R	0.699
13. とても幸せな気分で過ごしている R	0.590

第2因子 母親の抑うつ不安感 (固有値1.813 寄与率8.24%)

項 目	負荷量
14. 何ともいえず淋しい気持ちにおそわれることがよくある	0.724
21. 不安や恐怖感におそわれることがよくある	0.550
7. 沈みがち	0.537
6. 淋しい	0.517
9. 悲観的になりやすい	0.481
15. 気が滅入ることがよくある	0.450

第3因子 自己否定感 (固有値1.476 寄与率6.71%)

項 目	負荷量
17. 何事にも敏感に感じすぎてしまう方である	0.720
18. とても心配性であれこれ気に病むことが多い	0.687
16. 楽天的であまりくよくよ考えない方である R	0.631

第4因子 焦燥感 (固有値1.434 寄与率6.52%)

項 目	負荷量
8. イライラすることが多い	0.812
12. おこりっぽい	0.613

第5因子 母親の心身不調感 (固有値1.058 寄与率4.81%)

項 目	負荷量
1. 眠れない	0.563
5. 食欲がない	0.473
11. 心身ともに不調	0.410

② 3-6歳未満群

第1因子 母親の心の不健康感 (固有値6.026 寄与率27.39%)

項 目	負荷量
4. 毎日が充実している R	0.746
10. 気持ちが充実している R	0.752
3. 生き生きしている R	0.699
13. とても幸せな気分で過ごしている R	0.590

第2因子 母親の抑うつ感 (固有値1.998 寄与率0.08%)

項 目	負荷量
6. 淋しい	0.517
7. 沈みがち	0.537
14. 何ともいえず淋しい気持ちにおそわれることがよくある	0.724
15. 気が滅入ることがよくある	0.450
11. 心身ともに不調	0.410

第3因子 自己否定感（固有値1.585 寄与率7.20%）

項 目	負荷量
18. とても心配性であれこれ気に病むことが多い	0.687
17. 何事にも敏感に感じすぎてしまう方である	0.720
16. 楽天的であまりくよくよ考えない方である R	0.631

第4因子 焦燥感（固有値1.386 寄与率6.30%）

項 目	負荷量
8. イライラすることが多い	0.812
12. おこりっぽい	0.613

領域Ⅷ. 父親の心の状態に関する項目

① 0-3歳未満群

第1因子 父親の抑うつ感（固有値3.594 寄与率29.95%）

項 目	負荷量
6. 淋しい	0.748
7. 沈みがち	0.681
9. 悲観的になりやすい	0.498
2. 居場所がない	0.480
1. 眠れない	0.452

第2因子 父親の心の不健康感（固有値1.772 寄与率14.77%）

項 目	負荷量
3. 生き生きしている R	0.828
4. 毎日が充実している R	0.768
10. 気持ちが充実している R	0.639

② 3-6歳未満群

第1因子 父親の心の不健康感（固有値3.675 寄与率30.62%）

項 目	負荷量
4. 毎日が充実している R	0.862
3. 生き生きしている R	0.751
10. 気持ちが充実している R	0.658

第2因子 父親の抑うつ感（固有値1.348 寄与率11.23%）

項 目	負荷量
7. 沈みがち	0.758
6. 淋しい	0.615
11. 心身ともに不調	0.374

第3因子 父親の心身不調感（固有値1.000 寄与率8.33%）

項 目	負荷量
1. 眠れない	0.626
2. 居場所がない	0.425
11. 心身ともに不調	0.413

領域Ⅸ.妊娠、分娩、新生児期の異常に関する項目

① 0-3歳未満群

第1因子 妊娠や分娩や新生児の異常 (固有値1.701 寄与率42.53%)

項 目	負荷量
6. 新生児期の異常	0.594
1. 妊娠中の異常	0.518
3. 分娩中の異常	0.412
7. 生後1ヶ月以降の異常	0.410

② 3-6歳群

第1因子 妊娠や分娩の異常 (固有値1.510 寄与率37.75%)

項 目	負荷量
1. 妊娠中の異常	0.584
3. 分娩中の異常	0.459

第2因子 新生児期の異常 (固有値1.063 寄与率26.57%)

項 目	負荷量
6. 新生児期の異常	0.534
7. 生後1ヶ月以降の異常	0.480

領域Ⅹ.乳児期の特徴に関する項目

① 0-3歳未満群

第1因子 difficult type (固有値2.681 寄与率44.69%)

項 目	負荷量
6. おとなしく手がかからなかったR	0.840
2. あまり泣かなかったR	0.584
5. とても手がかかり大変だった	0.482
3. よく泣いてなだめにくかった	0.443

② 3-6歳未満群

第1因子 difficult type (固有値2.881 寄与率48.02%)

項 目	負荷量
5. とても手がかかり大変だった	0.775
3. よく泣いてなだめにくかった	0.680
1. あまり眠らない方だった	0.602